

特集

「岡谷」のブランド化とその発信で… 選ばれるまちになる

広く一般から、共感、あこがれ、満足を集めるもの…それらはブランドと呼ばれています。一方、ブランディングは、競争を勝ち抜く戦略でもあります。「地域ブランド」でいえば、松阪牛、今治タオルなどの特産品、あるいは京都、沖縄、横浜、軽井沢なども地名を超えたブランド的存在ではないでしょうか。「行ってみたい」「住んでみたい」「買ってみたい」…魅力あるイメージは、人を動かします。

岡谷ブランドの推進とは、ずばりコレをめざすもの。わがまちのすばらしさを発信し、岡谷ファンを増やして、創生のカギにしようという取組です。

シルクファクトおかや(岡谷蚕糸博物館)



岡谷は、どんなまちなのか、日本のなかで、どんなふう知られているか、考えてみませんか。まちのすばらしさを認識すること、立ち位置を知ることがブランド構築のスタート地点だと思います。平成23年、地域資源の掘り起こしと価値の再認識によりブランド構築を進めるべく、市にブランド推進室が設置されました。翌年には、官民協働でその活用に取り組む「おかやブランドプロモーション協議会」も発足し、シルクファクトおかやを拠点に、積極的PRによって、岡谷の認知向上を図ろうと活動をしているわけですが、地方が脚光を浴びる時代、自分のまちの魅力をしっかり認識し、ふるさとの誇りや愛着をより強くして、めざすまちの方向性を束ね、みんなが岡谷ブランドの発信ができたなら、すばらしいですね。

岡谷には、財産がたくさんあって、アクセ

おかやブランドプロモーション協議会の山岸吉郎会長(イルフ童画館館長)に聞きました。

ブランド力を高めていくには？

スモよいわけです。諏訪湖、塩嶺、サクラ、ツツジ、紅葉、冬らしい美しい景色…

と、自然の魅力は挙げきれませんが、シルクの価値にしても、歴史的側面と、新たな文化的側面があり、数が多いだけに魅力が分散しているといえなくもありません。

そこで、ブランドコンセプト「湖に映える、美しいものづくりのまち」をまんなかにすえて、資産を組み合わせながら、方向性を定め、より印象的に、独自の魅力づくりを進めたらどうだろうと考えています。

そこで、ブランドコンセプト



どう発信していくの？

社会を動かす女性へのアピールとして、シルクは訴求力があるけれど「シルクのまち」というだけでは、オンラインワンにはなれません。岡谷らしさで抜きん出るため、また、シルクをもっと身



「武井武雄 手藝図案集」の復刻版出版に合わせて、おかやブランドプロモーション協議会が製作した武井武雄刺繍図案のバッグ



「これに社名を入れるだとか…いかがですか。記念品などに使ってください。武井武雄は岡谷の財産ですから、市内の事業所やショップでオリジナル製品を展開したり、そんなご相談も、お待ちしております」と山岸会長

近なものにするため、いま取り組んでいるのが、武井武雄とのコラボです。武井武雄生誕120年の全国巡回展の手応え、また童画館への遠方からの来場者もそうですが、武井の童画の斬新さやデザインの洗練、オリジナリティは、いまも飛び抜けていて、若い人にも新鮮に受けとめられ、熱烈に歓迎されているんです。

「武井武雄 手藝図案集」をもとに制作する刺繍のワークシヨップは、とても人気があり、開催のリクエストもたくさんい





カナラホールで行われた
ファッションショー
「キヌコレ」より



HandMade In Japan Fes 2016



今年7月に、東京ビッグサイトで開催されたHMJ（ハンドメイド・イン・ジャパン）2016
全国から5000名のクリエイターが参加したこのイベントに出展。岡谷ブランドの発信を行った



武井武雄のデザインをモチーフにした刺繍イベントは大盛況

ただいています。これがシルクでできれば、さらに岡谷らしいですね。

昨年、文化服装学院、ファッション雑誌「装苑」との協働で取り組んだ「キヌコレ」も、岡谷のシルクと若い感性が融合した画期的なプロジェクトでした。文化服装学院の学生との1年に及ぶ交流は、ファッションショーというかたちに結実。武井の世界に通じるファンタジックなテーマや造形、岡谷の自然をイメージした色彩など、作品には「岡谷」が、深くインスパイアされていました。



「武井武雄 手藝図案集」原本

そこからのひとつの発展形として、現在、新たなプロジェクトが進行しています。最近、ハンドメイドがブームでもあるので、それに着目。全国5万人の手づくり作家、デザイナーから、ネットで直に作品を買うことができるマーケットサイト「Crema（クリーム）」と提携し、作りに岡谷のシルクを提供。オリジナルの作品を制作出品してもらおうというものです。どんな作品がアップされてくるか、ワクワクしますね。刊本作品をあれだけつくった武井武雄自身、ハンドメイドの先駆者ということもできます。話題性から経済効果、経済効果から活性化へ、岡谷ブランドの挑戦はこれからです。

問合せ ● ブランド推進室(岡谷蚕糸博物館内)
☎23-3489